

「マムシ咬傷、ムカデ咬傷、オコゼ刺傷について」

平成 29 年 6 月放送

笠松 宏至

今日はマムシ咬傷、ムカデ咬傷、オコゼ刺傷についてお話しします。

まずマムシ咬傷についてです。日本に生息する蛇の中で毒性を持つものは比較的少ないのですが、マムシは毒性が強いことで有名です。全長 45cm から 80cm で、概ね淡い茶色をしています。山や森で多く見られますが、田んぼや水辺にも現れます。春から秋によくみられます。頭は三角形をしていて、頭の前の方に毒牙が 2 本あるので、咬まれた痕が隣り合わせに 2 箇所みられるのが特徴です。咬まれると 1 時間以内で激しい痛み、腫れ、内出血が出てきます。指輪をつけている手の指を咬まれた場合には、腫れにより指輪を外せなくなることもあるので早めに指輪を外しましょう。応急処置として咬まれた傷口より心臓側を縛ると聞いたことがある人もいると思います。幅のある布で軽く圧迫するように巻くのは有効ですが、細い紐などできつく縛りすぎると逆に有害となる可能性もあり注意が必要です。応急処置にこだわるよりも、とにかくできるだけ早く医療機関を受診することが重要です。進行が早いため原則的には入院が勧められており、血液検査や抗生物質の点滴などでの治療を行います。重症例では抗毒素血清という薬を投与します。

次にムカデ咬傷についてです。マムシ咬傷と同様に春から秋によくみられます。



ムカデは防御反応のために咬むといわれており、手で払いのける際に咬まれることが多いようです。ムカデ咬傷では咬まれた部位に激しい痛みや赤み、腫れを生じることがあります。やや熱めの入浴温度に相当する 43 度前後のお湯

に咬まれた部分を浸し、温めると数分から 1 時間以内に良くなることが多いです。自宅などで受傷された際にはまずお湯での応急処置をしましょう。致死的となることはほとんどありませんが、稀にアナフィラキシーという重篤な状態になることがあるので咬まれた部位以外の症状が出た際にはすぐに医療機関を受診してください。

最後にオコゼ刺傷についてです。海で遊ぶ機会の多い夏にみられます。オコゼはカサゴ目に分類され様々な種がありますが、福井ではオニオコゼやハオコゼが多く確認できます。オコゼは背ビレに毒棘という毒をもつ長い棘があります。刺されるというよりも浅瀬にいるオコゼを踏んで受傷すると思いますが、その直後から焼け付くような痛み、腫れ、しびれが出現します。オコゼ刺傷も 43 度前後のお湯に浸すと毒素が分解され症状が和らぐとされていますが、傷口に棘が残っている場合には除去が必要ですので医療機関の受診をお勧めします。ムカデ咬傷と同様に致死的となることはほとんどありませんが、稀にアナフィラキシーという重篤な状態になることがあるので気をつけてください。

これから野外活動が多くなる季節ですので、正しい知識と対策を学んでから出かけるようにしましょう。